

lifestyle

# パリジェンヌが案内する 秘密のヒーリング・スポット

クリエイターとして五感を研ぎ澄ませたライフスタイルを送っている3名のパリジェンヌに、  
お気に入りのヒーリング・スポットを案内してもらった。  
パリジェンヌのエコ・リュクスな生活の秘密がわかるはず。



## 馬の彫像がある 力強い噴水の眺め

リュクサンブール公園  
Jardin du Luxembourg

「リュクサンブール公園は、散歩に  
ときどき行くけれど、そこで特にお  
気に入りの場所は、南のはずれにあ  
るマルコ・ポーロ庭園の噴水。私は  
オブジェが好きなので、その馬の  
彫刻の力強い様がとても印象的な。  
夏の暑い日には、噴水が元気よく上  
がり、見ていて楽しい。サンジェル  
マンのほうから公園に入り、のんび  
り散歩しながらずっと南に向かうと、  
いつしかたどりつく。リュクサンブ  
ール公園は広大なので、いつも新し  
い発見があるのよ」

Jardin du Luxembourg  
2, rue Auguste Comte 75006 Paris  
※7:15 ~ 20:15  
Map P.97 D-4

(左) 自宅のサロンでくつろぐフロリーヌ。(右) 作品が飾られた明るいアートエ。



## Florine Asch

ストラスブール生まれ。パリの芸術美術学校卒業。エールフランス日本語版機内誌  
「Bon Voyage」の表紙などでおなじみ。www.florineasch.com  
※10月7~20日まで、ブランドン銀座にて日本で初の個展が開催される。  
※ブランドン銀座 ☎03-3567-0077

## 植物と庭園の表情に 触発される日々

カルナヴァレ美術館の庭園  
Musée Carnavalet

「家のそばにあるカルナヴァレ美術  
館。パリの歴史を紹介しているけれ  
ど、その庭園が素晴らしい。手  
入れの行き届いた庭で、いろいろ  
な木や蕾の花が植えられていて、  
それを道路越しやフェンス越しに眺  
めていると、いつもグリーンに表情が  
あり、自然には心を和ませてくれ  
る力があると思う。そして、光の状  
態。空気が澄んだ朝の光に満ちた庭。  
夕暮れ時の太陽が射し込んだ庭。夕  
暮れ時の庭。眺めていると飽きないわ」

Hôtel Carnavalet  
23, rue de Sévigné 75003 Paris  
☎01 44 59 58 58  
※10:00 ~ 17:30 休月  
Map P.97 E-3

## 美しい花やグリーンに 癒されて 感性を紡ぐ

フロリーヌ・アッシュ  
水彩画家、イラストレーター

今、パリで最も輝いている  
ひとり、水彩画家でイラスト  
レーターのアッシュ・アッ  
シュ。フロリーヌが描く絵は、  
彼女のハートの温もりが伝わ  
ってくるような優しく繊細な  
色彩で表現され、詩的なニュ  
アンスが多くの人々の心を惹  
きつけている。  
フロリーヌのクリエイティ  
ブ・ソールズやヒーリング・ス  
ポットなどを教えてもらうた  
めに、マレにあるフロリーヌ  
のアートエを訪問した。  
「中世の面影が残るマレは、  
私の好きな場所。だから私は  
ずっとこのマレに住んでいる  
の。家の近くには、カルナツ

アレ美術館の庭園やウキ  
ユ広場などがあり、そうした  
緑を眺めているだけでも、気  
持ちが癒されてくるのよ」  
すらすらと長身で、美しい瞳  
をもつフロリーヌは言う。  
「私は旅先で大きなエモーシ  
ョンを受けることが多いので、  
そうしたものを作品にしてい  
ることが多いわ」  
アートエには、制作中の水  
彩画や今までの作品などが飾  
ってあり、ひとつひとつが小  
さなビジュー(宝石)のよう  
な輝きを放っている。  
「近所には、とても素敵なプロ  
リストがあるの。そこに行く  
と、私の大好きな芍薬やカサ  
プランカがあり、美しい花び  
らを見ているだけでも、創作  
意欲が湧いてくるの」  
アーティストの鋭い視線。  
それは、絵を描くうえで大  
きな要素となっている。花やグ  
リーンに癒される、時にはス  
パやキネセラでも通う。10月  
で、日本初の個展を聞くとい  
う。フロリーヌの素敵な作品  
に出会える日も近い。

フロリーヌ・アッシュさん。本  
画家・イラストレーター。ルイ  
ヴィトンが出版する旅のノートブ  
ック「カルネ・ドゥ・ヴァウヤ  
ージュ ムンバイ」や、エールフ  
ランスの日本語版機内誌の表紙  
を手がけるほか、多方面で活躍  
している。2008年10月7日~20  
日、ブランドン銀座にて日本で  
初めての個展を開催。



譲り受けた銀器のコレクションだつた  
り。演出に使う「もの」に、一つ一つ大  
切な思いがあるせいででしょうか、これ  
らのものが置かれるとテーブルの上に魂  
が吹き込まれ、生き生きとした物語が始  
まるのです。  
季節やテーマを決めたテーブルアレ  
ンジは素敵ですし、ルールをなぞれば失敗  
の心配はありません。けれど、テー  
ブルを飾るうえで一番大切なエスプリ、それ  
は「楽しむ」こと。なぜならテー  
ブルは、自分自身を表現することだか  
ら。フロリーヌさんのしつらいからは、  
そんなメッセージが伝わってきます。



アラン・デュカス氏の手がける南仏のオーベルジュ  
「ラ・バステッド・ドゥ・ムスティエ」のテーブルを飾るプレートは  
フロリーヌさんが特別にデザインしたもの。  
ご自身も同じものを手もとに置き、お客さまをおもてなす。

ヴェネチアを旅した際に、職人に注文して作らせたとおきの  
オブジェは、色とりどりのフルーツもすべてガラス細工。  
鉛筆に見えるのは、ヴェネチアングラスの製造に使うガラス棒。  
ご主人のお母さまが少女の頃に刺繍した、テーブルクロスを合わせた